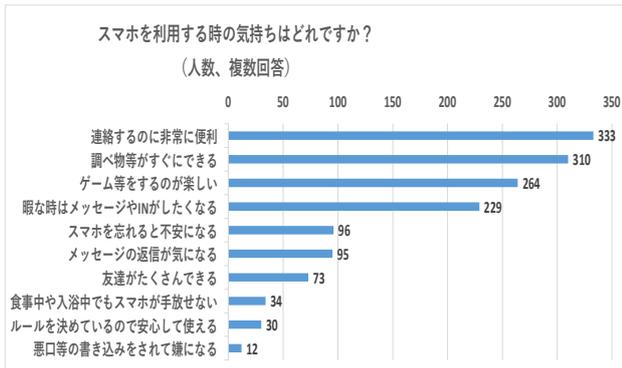


みのり

学校ホームページ <http://www.kamonorin-h.nein.ed.jp>

携帯・スマホと上手に付き合おう！



皆さんにとって携帯電話やスマートフォン(以下スマホ)はどんな存在ですか。9月に実施した「スマホの使用に関する調査」では、99%が自分のスマホを所持し、75%が毎日2時間以上利用するなど、身近な存在であることがあらためてわかりました。

「スマホを利用する時の気持ちは？」の質問では、グラフのとおり、「連絡するのが非常に便利」333人、「調べ物等がすぐにできる」310人など、スマホによって便利さを手にする一方で、「メッセージの返信が気になる」95人、「食事中や入浴中でもスマホを手放せない」34人、「悪口等の書き込みをされて嫌になる」12人など、平穏な日常に悪影響が生じている人も少なくないことがわかりました。

また、「フィルタリングをかけていない」「わからない」が58%、「スマホの使い方について家庭でルール(料金・時間・場所・相手・アプリの制限等)を決めていない」が54%もいるなど、スマホ依存やトラブルに巻き込まれる危険がある人が少なくないことがわかりました。

情報化の現代。ICT機器を使いこなせるようになってほしいですが、学校では「face to faceのコミュニケーションを大事にすること」に加えて、家庭でも「夜11時から朝7時まででは使用しないこと(いわゆるイレブンセブン運動)」など、上手な付き合い方ができるよう再度考えてみてください。

農業大学校初の料理コンテストで優勝！



9月15日(土)、新潟県農業大学校のオープンキャンパス特別編。午後から同校初の料理コンテストが行われ、農大の野菜を3種類以上使った丼づくりに書類選考を経た農業高校生3チームが挑みました。

本校からは、食品技術科3年の笠原美笛さん、西村那々子さんのチームが参加。野菜たっぷりの「1度で2度おいしい！オールマイティー丼！」を作り、見事優勝に当たる農業大学校賞を受賞しました。

審査員の“うしろシティ”さんたちからは、「1杯の丼で1日に必要な野菜が取れるなんて素晴らしい」「大きな丼で食べた時を考えた味付けになっている」など高評価をいただきました。何回も試作した甲斐がありました。おめでとうございます。

また、午前中行われたオープンキャンパスには、本校から15人が参加。初参加の人は新発見、複数回参加の人も魅力の再発見があったようです。進路を考えるには、現場を体験することが大切と痛感した1日でした。

農業大学校のこと皆さん知っていますか？

- 稲作、園芸(野菜・果樹・花き)、畜産(酪農・肉畜)経営科の3学科。定員80人の7割は推薦入試で。
- 1年生は、原則として全寮制で、仲良くなれる。
- 学科(2年間)の後、専攻科(2年間)もある。
- 学科の後、毎年3人前後が新潟大学農学部3年次に編入している。他大学を含め大学編入希望者を支援する論文指導、英語講座もある。親切！
- 全国の農業大学校の中で唯一2種類(稲作・苺)のグローバルGAP(農業生産工程管理)認証を取得している。専門技術と経営をしっかりと学べる。

将来の選択肢に入れて挑戦しよう！

2年修学旅行を前にワークショップ！



9月5日(水)、2学年のLHRで、修学旅行事前学習としてワークショップが行われました。

新潟国際情報大学の学生40人が来校。ク

ラスごとに「世界の紛争をのぞいてみると」「食から見る異文化理解」「私のおやつを作る人」「民族の魅力を探ろう」のテーマを設け、模造紙に意見を書いたり付箋を貼りながら、グループで討論しました。

固い雰囲気もありましたが、ファシリテーター(促進役)の大学生のお陰で、徐々に活発な意見交換。学習が深まる時間を過ごすことができました。

こうした経験を通じて、社会や世界のことを自分事として考えられるようになるとうれいですね。

1学年地域学習「加茂学」がスタート！



9月14日(金)、地域学習「加茂学」が今年度もスタートしました。

この日は、三条地域振興局の方から1年生が「農業の現状と課題」の話を伺う講演会。生徒からは「日本全体の米の需要量が減る一方で、日本の農産物輸出額が1兆円にもうすぐ届くと聞いて可能性を感じた」「新潟県は米づくりが主だが、枝豆となすの作付面積が全国1位。経営の多角化も大切だと思った」「県央地区でもドローンによる農薬散布や除草ロボットが広がりがつつあると聞いて、驚いた」などの感想。

農業や地域の課題を発見し、解決に向けて考え行動する。そんなきっかけになると嬉しいです。

朝一番、小中高合同の挨拶運動に参加！

9月18～21日、加茂小学校で恒例の挨拶運動が行われ、小中高連携で元気な挨拶を交わしました。

本校からは延べ54人の生徒が参加。「小学生とハイタッチしながら挨拶ができて気分が良かった」「“のうのう”に小学生が集まってきてくれてうれしかった」などの声。元気な挨拶で、明るい一日をスタートさせたいですね。



小学校・特別支援学校との交流深まる！



【←ブドウの収穫体験】



【子豚かわいい♪→】

今年も地域の学校との交流が始まりました。9月11日(火)に須田小学校1・2年生5人、18日(火)に加茂小学校1・2年生72人、25日(火)に五泉特別支援学校高等部生徒47人が川船農場を訪問してくれました。

ブドウ狩り、栗拾い、牛や山羊のえさやり、豚のブラッシングなどを高校生と一緒に体験交流。「ブドウがとても甘かった」「栗ご飯が食べたいな」「子豚がかわいい」などの声が聞かれ、農業の魅力と大切さを感じてくれたようです。

今後とも積極的に交流を続けていきます。

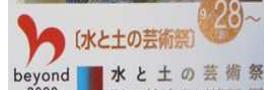
生命情報コース、高大連携授業スタート！

9月13日(木)、新潟大学農学部と連携した授業がスタート。県の「高校特色化地域人材活用事業」の一環で今年も10回以上の授業を計画しています。

この日は、農学部教授と大学院生2人が、「食味と官能検査」について実験と講義。果汁100%と某清涼飲料の飲み比べ、コシヒカリと北海道産米の食べ比べなどを行い、味の感じ方、美味しいと感じるメカニズムの奥深さを学びました。

今後も継続した取組で学習の充実を図ります。

草花コース、庭園の里保内で坪庭展示！



9月28日(金)から10月8日(月)まで、庭園の里保内で開かれる「保内ガーデンフェス2018」に、草花コースが参加。グループごとに作った坪庭の展示を行います。

「水と土の芸術祭」参加企画として、高校生ならではの感性を感じていただきたいと思います。

たくさんの方のご来場をお待ちしています。